

國語調査委員會

明 三五・三・二四
大 二・六・一三

關係部局

總務局圖書課 (明三五・三——明三六・一二)

官房圖書課 (明三六・一二——明四四・五)

圖書局第二課 (明四四・五——大 二・六)

予算

一〇、〇〇〇円 (明治三十五年度)

附 國語調査會

明三三・四・四——明三五・二・一二

○辭令 (明三三・四・四官報)

國語調査委員長ヲ囑託ス

(各 通)

東京帝國大學文科大學教授 文學博士 上 田 萬 年

高等師範學校教授 那 珂 通 世

國語調査委員ヲ命ス

文學博士 大 槻 文 彦

三 宅 雄 二 郎

國語調査委員ヲ囑託ス（以上四月二日付）

（明三三・四・一四官報）

國語調査委員ヲ囑託ス（四月十三日）

朝比奈知泉

德富猪一郎
湯本武比古

○官制（明三五・三・二五官報）

〔勅令〕

朕國語調査委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十五年三月二十四日

內閣總理大臣

伯爵桂

太

郎

文部大臣

理學博士男爵

菊

池

大

麓

勅令第四十九號

國語調査委員會官制

第一條 國語調査委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ國語ニ關スル事項ヲ調査ス

第二條 國語調査委員會ハ委員長一人委員十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 委員長、委員及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條 委員長ハ會務ヲ處理シ委員會ノ議長ト爲リ調査ノ結果ヲ文部大臣ニ具申スヘシ

委員長事故アルトキハ文部大臣ノ指命シタル委員其ノ事務ヲ代理ス。

第五條 國語調査委員會ニ主査委員若干人ヲ置キ委員ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第六條 國語調査委員會ニ主事一人ヲ置キ委員ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス

主事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條 國語調査委員會ニ書記若干人ヲ置キ委員長之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○辭令 (明三五・四・一二官報)

明治三十五年四月十一日

國語調査委員會委員長被仰付

正三位文學博士男爵 加藤 弘 之

東京高等師範學校長 嘉納 治 五 郎

東京帝國大學文科大學教授文學博士 井 上 哲 次 郎

文部省普通學務局長 澤柳政太郎

東京帝國大學文科大學教授文學博士 上田萬年

東京帝國大學文科大學教授文學博士 三上參次

(各通)

文部書記官 渡部董之介

東京帝國大學文科大學教授文學博士 高楠順次郎

正四位文學博士 重野安繹

正五位 德富猪一郎

從五位文學博士 木村正辭

從七位文學博士 大槻文彥

從三位 前島密

國語調查委員會委員被仰付

國語調查委員會主事ヲ命ス

國語調查委員會委員文學博士 上田萬年

(四月十一日)

○辭令

(明三五・九・二六官報)

明治三十五年九月二十五日

國語調査委員會委員被仰付

東京帝國大學文科大學教授 芳賀矢一

○國語調査委員會委員長職務規程

(明治三十五年四月九日文部大臣訓令)

國語調査委員會

國語調査委員會委員長職務規程左ノ通定ム

國語調査委員會委員長職務規程

第一條 委員長ハ主事、委員、臨時委員ノ進退ニ付文部大臣ニ稟申スルコトヲ得

第二條 主事、委員、臨時委員ニ對シ手當ノ給與ヲ必要ナリト認メタルトキハ委員長ハ其ノ旨ヲ文

部大臣ニ具申スヘシ

第三條 委員長ニ於テ必要ナリト認メタルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ在官者若ハ官職ヲ有セサル

者ニ調査事務ヲ囑託スルコトヲ得

第四條 左ニ掲クル事項ハ委員長ニ於テ專行スヘシ

一 會務ノ整理上必要ナル細則ヲ定ムルコト

二 雇員ノ進退ニ關スルコト

三 主事、委員、臨時委員、囑託員、書記及雇員ノ除服出仕及請暇ニ關スルコト

四 諸規則及報告等ノ印刷ニ關スルコト

五 右ノ外委員會ノ常務ヲ處理スルコト

第五條 前條ニ掲ケタル事項ノ外總テ文部大臣ノ許可ヲ受ケテ施行スヘシ

第六條 主査委員及書記ノ命免ハ其ノ都度文部大臣ニ報告スヘシ

○辭令 (明三五・二・一二官報)

明治三十五年二月八日

國語調査委員長囑託ヲ解ク

(各 通)

東京帝國大學文科大學教授

文學博士 上 田 萬 年

高等師範學校教授

文學博士 那 珂 通 世

國語調査委員ヲ免ス

文學博士 大 槻 文 彦

文學博士 三 宅 雄 二 郎

(各 通)

德 富 猪 一 郎

湯 本 武 比 古

朝 比 奈 知 泉

國語調査委員囑託ヲ解ク

○國語調查委員會決議事項 國語調查委員會ハ本年四月ヨリ同六月ニ涉リテ九回委員會ヲ開キ其調

査方針ニ就キテ左ノ如ク決議セリ(文部省)

一 文字ハ音韻文字(「フオノグラム」)ヲ採用スルコト、シ假名羅馬字等ノ得失ヲ調査スルコト

二 文章ハ言文一致體ヲ採用スルコト、シ是ニ關スル調査ヲ爲スコト

三 國語ノ音韻組織ヲ調査スルコト

四 方言ヲ調査シテ標準語ヲ選定スルコト

本會ハ以上四件ヲ以テ向後調査スヘキ主要ナル事業トス然レトモ普通教育ニ於ケル目下ノ急ニ應ゼンカクメニ左ノ事項ニ就キ別ニ調査スル所アラントス

一 漢字節減ニ就キテ

二 現行普通文體ノ整理ニ就キテ

三 書簡文其他日常慣用スル特殊ノ文體ニ就キテ

四 國語假名遣ニ就キテ

五 字音假名遣ニ就キテ

六 外國語ノ寫シ方ニ就キテ

(明三六・八・一九官報)

○國語調查委員會事項 昨三十五年四月ヨリ去月ニ至ル國語調查委員會ニ於ケル議案及審議ノ事項
並ニ參考資料等左ノ如シ(文部省)

國語調查委員會議案(明治三十五年四月ヨリ同三十六年七月ニ至ル)

一 會議略則

二 國語調查方針

三 國語調查方針第一回整理案

四 字音表記法

五 國語調查方針第二回整理案

六 第一號文部大臣諮問案

字音書キ方ニ關スル事項

國語書キ方ニ關スル事項

文法上許容ニ關スル事項

七 同上諮問案ニ對スル特別委員修正案

(上田萬年外ニ特別委員)

八 國語調查方針第三回整理案

九 第一號文部大臣諮問案ニ對スル修正案

(委員 大槻 文彦)

一〇 同上

文法上許容ニ關スル事項

(委員 渡部 董之介)

一一 同上

「ヒーラヒラ」「ピーカピカ」等ノ長音表記ニ關スル件

(委員 渡部 董之介)

一二 漢字省減案(第一)

一三 第一號文部大臣諮問案ニ對スル修正案

「てにをは」「ト」ヲシテ動詞助動詞ノ連體言ノ下ニ「コト」ヲ略シタリト見做スヘキ場合
ニ於テ直ニ其動詞助動詞ヲ受ケテ名詞ニ連續スルモ妨ナシト認ムル件

(委員 芳賀 矢一)

一四 第一號文部大臣諮問案ニ對スル修正案

「てにをは」「ト」ヲシテ動詞形容詞助動詞ノ連體言ヲ受ケシムトモ妨ナシト認ムル件

(委員 渡部 董之介)

一五 假名遣改正ニ關スル件

(委員 大 槻 文 彦)

一六 漢字省減案ニ對スル特別委員修正案 (重野安繹外ニ特別委員)

一七 「タイプライター」用平假名片假名竝ニ符號ニ關スル件 (文部省文書課長ヨリ調査方依頼)

一八 第一號文部大臣諮問案ニ對スル修正案

指定ノ「てにをは」ノ「ト」竝ニ過去助動詞ノ「キ」ニ關スル件 (渡部董之介外ニ特別委員)

一九 第二號文部大臣諮問案

國語假名遣ニ關スル事項

二〇 第二號文部大臣諮問案ニ對スル修正案

國語假名遣中許容ニ關スル件

(委員 芳 賀 矢 一)

二一 同上

國語假名遣に關する件 (同上)

二二 第二號文部大臣諮問案ニ對スル特別委員修正案

(大槻文彦外四特別委員)

二三 同上 追加案

二四 第一號文部大臣諮問案ニ對スル第一回整理案

二五 同上第二回整理案

二六 同上追加案

文法上許容スヘキ事項ノ第七、第十二ニ加フヘキ例 (主査委員大槻文彦)

二七 漢字省減案(第一)中、うらむらくは、おもふに、おもへらく、こひねがはくは等ノ語性調
査ニ關スル件 (木村正辭外四特別委員)

二八 音韻調査ニハ主トシテ「ローマ」字ヲ使用スヘキ議 (主査委員 上田萬年)

二九 長音ノ表記ニ關スル件 (同上)

三〇 代名詞制定案

三一 送假名法案

三二 漢字省減整理案(第一)

三三 尊卑ニ就テ代名詞ト動詞助動詞トノ用法 (主査委員 大 槻 文 彦)

三四 送假名法ニ關スル特別委員修正案 (渡部董之介外四特別委員)

三五 送假名法修正案 (委員 芳 賀 矢 一)

諸調査材料並諸報告書類目錄

一 片假名、平假名 書方讀方ニ關スル心理的實驗報告 (臨時委員元良勇次郎外一人)

二 假名羅馬字兩說ノ優劣比較 (補助委員 大 矢 透)

三 國語假名遣法調査材料第一報告

濁音ジ、ヂ、ズ、ヅニ關スル件

(補助委員 大 矢 透)

四 明治年間ノ國語調査ニ關スル事項年表

(補助委員 大 矢 透)

五 國語假名遣法調査材料第二報告

長音ノ如クニ呼ブ音ヨリ成レル語調

(補助委員 大 矢 透)

六 岡山、廣島、香川、愛媛四縣下方言取調報告

(補助委員 岡 田 正 美)

七 佛蘭西ノ語法ノ簡略ニ關シタル一千九百一年二月二十六日文部省令 (翻譯)

八 明治三十五年四月ヨリ 同三十六年七月ニ至ル 國語調査委員會二十七回分議事速記録 (三十冊)

委員以下ヨリ提出ノ參考書類 (明治三十五年四月ヨリ同三十六年七月ニ至ル)

一 「ー」假名ニツキテノ意見

(補助委員 大 矢 透)

二 と、とも、又ハど、どもヲ單ニもトスルニツキテノ意見

(補助委員 岡 田 正 美)

三 といふト云フ語ノ代リニ單ニなるト云フ語ヲ用キルコトノ不都合ナル例

(補助委員 岡 田 正 美)

四 長音符「ー」ヲ記入シタル假名文印刷見本

五 國語假名遣ニ關スル文部大臣ノ諮問案ニ對スル參考書